

移動を表す不変化詞動詞と経路項との 共起について

— fahrenの不変化詞動詞を対象に —

Zur Kombinatorik der Partikelverben der Fortbewegung mit direktionalen
Wegargumenten am Beispiel von Partikelverben mit *fahren*

高橋 美穂

Miho TAKAHASHI

1. はじめに

Talmy (2000) によるところの「付随要素枠付け言語 (satellite-framed languages)」に分類されるドイツ語では、表される移動事象をアスペクト的に限定しえる経路項が、前置詞や不変化詞といった動詞の付随要素によって表される。fahren, fliegen, laufen, schwimmenなどの移動動詞では、方向の前置詞句（例えばnach, zuや対格支配のin, anなど）が、起点、着点、通過点などの具体的な経路項となる。経路の概念を表す動詞の付随要素としては、これらの前置詞の他に、ab-, aus-, ein-などの不変化詞も挙げられる。これらの不変化詞とfahrenやlaufenなどの移動動詞が組み合わせられると、特定の経路項（例えばab-, aus-の場合は移動の「起点」、ein-では「着点」）を内包する複合動詞¹となる。

ドイツ語の移動動詞については、Gerling/Orthen (1979)やSchröder (1993)に代表されるように、とりわけヴァレンツ理論の枠組みで集中的に研究がなされた。不変化詞動詞については、Olsen (1997, 1998)などにおいて、語彙意味論的観点から分析されており、例えばein-やdurch-などの不変化詞はそれ自体で経路項（着点ないし通過点）を内包するため、inやdurchといった前置詞句による経路表示は冗長(pleonastisch)であるという議論がなされている。しかし、Olsenによる一連の研究では、もっぱら内省に基づくデータが引き合いに出さ

¹ 本稿では「複合動詞」という用語を、aus- や ein- などの不変化詞による不変化詞動詞 (Partikelverben) および be-, ent- などの接頭辞による接頭辞動詞 (Präfixverben) を一括するものとして、「複合的な動詞 (komplexe Verben)」という意味で用いている。

れている。そこで本稿では、移動動詞*fahren*を基礎動詞とするいくつかの不変化詞動詞を対象とし、これらがどのような経路項と共起する傾向があるのか、コーパスを用いて調査し、明らかにする。調査の主眼は次の2点に置かれる：(i) 経路項とどの程度共起するか、(ii) 共起する経路項の具体的な内訳（起点、着点、通過点・ルート）がどのようなものであるか。

以下、第2節では移動に伴う諸要素、とりわけ移動の様態と移動の経路が、ドイツ語ではどのように言語化されるかを確認し、経路項の表示と動詞によって表される移動事象のアスペクトとの関連に言及する。第3節では、経路項の語彙化と関連する不変化詞をまとめる。第4節では、移動動詞*fahren*および*fahren*を基礎動詞とする不変化詞動詞—*abfahren*, *ausfahren*, *durchfahren*, *einfahren*, *wegfahren*, *zufahren*を対象としたコーパス調査の結果を示す。第5節では、調査・分析結果をまとめ、課題と展望を述べる。

2. 移動に伴う諸要素と経路の有界性・非有界性

移動動詞のタイポロジーについては、Talmy (1985, 2000)や宮島 (1984)による研究が知られているが、それらによると、諸言語は大きく、移動の様態を単一動詞に語彙化するタイプと経路の概念を語彙化するタイプに分類される。英語やドイツ語のようなゲルマン系の言語は、移動様態を単一動詞に語彙化し、経路の概念を動詞本体ではなく、その付随要素によって表現する傾向があるため、Talmy (2000)において「付随要素枠付け言語」と呼ばれている²。*fahren*, *laufen*などの移動動詞では、移動に伴う特定の経路が*von*, *nach*, *in*（対格支配）, *über*（対格支配）といった前置詞句によって表される（*Das Kind läuft ins Haus./Der Zug fährt von Stuttgart über Mannheim nach Frankfurt.*）。第1節で述べたとおり、経路概念の言語化に関わるものとしては、前置詞句の他にも不変化詞が挙げられる。例えば、*ausfahren*では不変化詞*aus-*によって起点（「どこか（の中）から」）が、*einfahren*では不変化詞*ein-*によって移動の着点（「どこか（の中）に」）が語彙化されることになる。

² それに対し、移動経路が単一動詞に語彙化されるタイプ（例えばフランス語やスペイン語のようなロマンス系の言語）は、Talmy (2000)において「動詞枠付け言語 (verb-framed languages)」と呼ばれる。このタイプの言語では、以下の(a)のスペイン語の例のように、移動経路が動詞の語彙意味に包入される傾向があるとされ、移動様態は例えば(a)における *flotando* のように付加的に表現される：

(a) *La botella entró a la cueva (flotando)*
the bottle MOVED-IN to the cave (floating)

“The bottle floated into the cave.”

(Talmy 2000: 49)

移動動詞と経路項の前置詞句ないし不変化詞との結び付きは、動詞によって表される移動事象のアスペクトに影響を与える。fahren, laufenなどの移動動詞は通常、継続時間を表す副詞規定(Zeitdaueradverbiale)と共起する一方で、完了までに要する時間幅を表す副詞規定(Zeitrahmenadverbiale)との共起が認められない(例(1), (2))。すなわち、これらの移動動詞は本来的には非限界的(atelisch)な移動事象を表す動詞であると捉えることができる。これらの移動動詞では、明示的な起点や着点といった、始端ないし終端が閉じられた有界的(begrenzt)な経路表示を伴うことではじめて、限界的(telisch)な移動事象が表される(例(3), (4))。さらに、移動動詞を基礎動詞とし、ab-やein-のような不変化詞によって複合動詞が形成されると、以下の例(5)のように継続時間を表す副詞規定との共起が認められない。これらの不変化詞動詞では、例(3), (4)のような基礎動詞が有界的経路を表す起点や着点などを伴ったときと同様に、限界的な移動事象が表されるといえるだろう：

〈移動を表す基礎動詞の場合〉

- (1) a. Ich lief eine Stunde lang. b. Der Zug fuhr eine Stunde lang.
 (2) a. *Ich lief in zehn Minuten. b. *Der Zug fuhr in einer Stunde.
 (3) a. *Ich bin zehn Minuten lang ins Stadion gelaufen³.
 b. *Der Zug ist eine Stunde lang von Stuttgart gefahren.
 (4) a. Ich bin in zehn Minuten ins Stadion gelaufen.
 b. Der Zug ist in einer Stunde nach Frankfurt gefahren.

〈移動を表す不変化詞動詞の場合〉

- (5) a. *Der Zug ist eine Stunde lang abgefahren⁴.
 b. *Der Zug ist eine Stunde lang eingefahren.

上掲(3), (4)のように、前置詞句によって移動の起点または着点が明示された場

³ 判断を仰いだ母語話者の一人からは、「10 分間」が移動の継続時間ではなく、問題となっている場所((3a)では「スタジアム」)に移動の完結後に滞在した時間を指すならば、容認可とのコメントがあった。ただし、その容認の度合いは低いという。

⁴ Stiebels (1996) では、abfahren のような複合動詞と継続時間を表す副詞規定の共起は、反復相(iterativ)の解釈であれば可能とされるが(Sie fahren drei Stunden lang ab. (ibid.: 92)), (5)の例文を非文と判断した母語話者に尋ねてみたところ、例えば Züge fahren drei Stunden lang ab. という文で「列車が繰り返し発車する」という解釈が与えられても、やはり奇妙な表現であるという答えが得られた。

合、その経路は常に始端ないし終端で閉じられた有界的なものになるのに対して、前置詞*durch*, *über*などによって通過点が明示された場合には、(起点や着点の場合と同様の)有界的経路の他に、始端と終端が開かれた(*offen*)非有界的経路が表されることが可能である⁵。これらの通過点を表す前置詞と同様に、移動のルートを表す前置詞*um*においても、表される経路が有界的である場合と非有界的である場合とがありえる。これらの前置詞によって表される経路が有界的なものであるか、あるいは非有界的なものであるかは、以下の(6)のとおり、副詞規定との共起関係に基づき確かめることができる：

- (6) a. Er lief stundenlang/in einer Stunde *durch den Park*.
 b. Er ging *stundenlang/in einer Stunde *durch die Tür*.
 c. Er glitt stundenlang/in einer Stunde *über den See*.
 d. Er lief *stundenlang/in einer Stunde *über die Linie*.
 e. Er lief stundenlang/in einer Stunde *um den Park*.

(Kaufmann 1995: 75)

(6a)のとおり、前置詞*durch*で広がりのある空間が示されると、継続時間を表す副詞規定と完了までの時間幅を表す副詞規定のいずれとも共起が可能である。前者の場合は「何時間も公園じゅうを走った」という解釈、後者では「1時間で公園を走って通り抜けた」という解釈となる。他方で、(6b)のように広がりがない空間の場合には、「ドアを歩いて通り抜けた」という有界的経路の解釈のみが可能となる。前置詞*über*でも同様に、(6c)のように面的な広がりのある空間が示されれば、有界的経路と非有界的経路のどちらの解釈も可能な一方で、(6d)のように広がりがない空間が示された場合は、有界的経路として解釈され、完了までの時間幅を表す副詞規定との共起のみが許される。ルートを表す前置詞*um*では、(6e)のように、「公園を走って回る」のが1回きりの事象か、あるいは反復的に行われる事象であるのかに応じて、有界的な読みと非有界的な読みとが可能である。このように、*durch*や*um*などによる前置詞句で表示される通過点ないしルートが、有界的であるかあるいは非有界的であるかは、コンテクストに応じて決まってくるといえる。

⁵ *durch* や *über* のような通過点を表す前置詞と、起点あるいは着点を表す前置詞との質的な違いに関しては、Kaufmann (1993), Maienborn (1990), Wunderlich (1993) など参照。

3. 不変化詞・接頭辞の意味と経路項の語彙化

本節では、Kühnhold (1973)およびFleischer/Barz (1992)の記述を中心に、不変化詞・接頭辞の持つ意味、それらを伴う移動を表す複合動詞の例とその統語的なふるまいを概観しながら、経路項の語彙化と関係する不変化詞・接頭辞にどのようなものがあるかを確認する。以下、起点の語彙化と関連する「離隔」を表すもの(3.1.)、着点の語彙化と関連する「接近」を表すもの(3.2.)、通過点・ルート of 語彙化に関わる「通過」「周回」を表すもの(3.3.)を、それぞれ取り上げたのち、経路項の語彙化に関わる不変化詞・接頭辞をまとめる(3.4.)。

3.1. 「離隔」を表す不変化詞・接頭辞

Kühnhold (1973)によると、「離隔(Entfernen)」を表す不変化詞・接頭辞にはab-, aus-, ent-, ver-, er-があるとされるが、このうちver-はverschickenのような目的語で示される対象の移動を表すものが主に例に挙げられ、er-は移動を表す基礎動詞の例がないため、ここでは省略する。ab-を伴う移動動詞の例としては、abfahren, abfliegen, abgehen, ablaufen, abreisenなどが挙げられる(Fleischer/Barz 1992: 329)。また、ab-同様に離隔を表すものとしては、その他にweg-およびlos-が挙げられている(ibid.: 329)。aus-による移動を表す動詞の例としては、ausfahren, ausfliegen, ausgehen, auskriechen, auslaufen, ausreitenなどが挙げられる(ibid.: 335)。ent-を伴う移動動詞の例としては、entgehen, entkommenなどが挙げられる(ibid.: 322)。これらの動詞では、例えばdem Feuer entkommenのように、移動の起点が与格で示されることが可能とされる(ibid.: 322)。

3.2. 「接近」を表す不変化詞・接頭辞

Kühnhold (1973)では、「接近(Annähern)」を表す不変化詞・接頭辞として、an-, be-, ein-, auf-, zu-が挙げられている。Fleischer/Barz (1992: 331)によると、不変化詞an-が話者に向けての移動(Kühnhold (1973)によるところの「接近」)を表す働きを持つ場合、移動動詞を基礎動詞とし、さらに「過去分詞+kommen」の複合動詞句となることが多いとされる。be-は「他動詞化(Transitivierung)」の働きを持つとされ、例えばauf etw. fahren — etw. befahrenのように基礎動詞においては副詞規定(Adverbialbestimmung)である要素が、be-を伴う複合動詞では対格目的語で表示される(ibid.: 320f.)。この場合のbe-は「接近」ではなく「接触(Kontakt)」を表すものと考えられ(Kühnhold 1973: 181)、例えばbefahrenのようなbe-を伴う複合動詞の対格目

的語で示される経路項は、着点ではなく、全体経路ということになる。ein-には、特定の領域の中への移動を示す働きがあるとされ、例としてはeinfahren, einfliegen, eingehen, einkommen, einlaufenなどが挙げられている(Fleischer/Barz 1992: 338)。auf-については、aufsteigen, auffahren, aufspringenなどが例として挙げられる(ibid.: 333)。zu-に関しては、移動を表す複合動詞はその統語的なふるまいに応じ、次の2タイプに分けられる：(a) zu jmdm. fahren – auf jmdn. zufahrenのように移動の着点が前置詞句で示されるタイプ、(b) zu jmdm. fliegen – jmdm. zufliegenのように着点が与格で表示されるタイプ(ibid.: 342)。zufahrenの他、zugehen, zukriechen, zuschwimmenなども、タイプ(a)の例として挙げられている。

3.3. 「通過」「周回」を表す不変化詞・接頭辞

Kühnhold (1973)によれば、durch-, über-は「～を通して(hindurch)」ないし「通過(Überschreiten)」を表し、um-は「～を回って(herum)」を表すとされる。Fleischer/Barz (1992: 343)によると、durch-は分離する不変化詞の場合、とくに移動動詞を基礎動詞とし（例えばdurchkriechen, durchlaufen, durchmarschierenなど）、通過される対象は平面(Fläche)や障害(Hindernis)などでありえるとされる。durch-が非分離の接頭辞の場合には、対格を取る他動詞となり、動詞によって表される行為が対格で示される対象全体に及ぶことが強調されるとされる。移動動詞の例としては、fahren – etw. durchfahrenが挙げられており、通過される対象・移動経路が対格で表示される(ibid: 343)。über-については、Kühnhold (1973: 240)において、場所の移動を表すものとして、überklettern, überfliegen, überspringen, übersteigenなどが挙げられており、これらの複合動詞でも移動経路が対格で示される。um-に関しては、場所の移動を表す複合動詞の例として、Fleischer/Barz (1992: 345)でumfahren, umschwebenが挙げられており、これらも非分離のdurch-, über-の場合と同様に、移動経路を対格に取る他動詞となる。また、同一形態で分離／非分離のヴァリエーションがある場合には、通常は意味的に明確な区別があるとされ、その例として、jmdn. umfahren（乗り物をぶつけて倒す）– etw. umfahren（乗り物で周囲を回る）が挙げられている(ibid.: 345)。

3.4. 不変化詞による経路項の語彙化

経路項の語彙化と関連する「離隔」「接近」「通過・周回」を表す不変化詞ないし接頭辞は、それらによって形成される複合動詞がどのように経路項の表

示を許すかに応じて、次の3つのタイプに分類される：(a)経路項が前置詞句で表示されるもの（例(7a)），(b)経路項が与格で表示されるもの（例(7b)），(c)経路項が対格で表示されるもの（例(7c)）。このうちもっとも多いのは、以下の表3-1のとおり、タイプ(a)であるといえる（なお、表3-1は代表的な組合せを挙げたもので、網羅的なものではない）：

- (7) a. Ein Kreuzfahrtschiff läuft *aus dem Hafen* aus.
 b. *Mir* ist ein Vogel zugeflogen.
 c. Er hat *den Wald* durchlaufen.

	(a)経路項：前置詞句	(b)経路項：与格	(c)経路項：対格
「離隔」	ab-, aus-, los-, weg-, ent- (e.g.; aus etw. entlaufen)	ent-	
「接近」	an-, ein-, auf-, zu- (e.g.; auf jmdn. zu- fahren)	zu- (e.g.; jmdm. zufliegen)	an- (e.g.; etw. an- fliegen)
「通過・ 周回」	durch- ((分離)), über- ((分離))		durch- ((非分離)), über- ((非分離)), um- ((非分離))

表3-1：「離隔」「接近」「通過・周回」を表す不変化詞・接頭辞

表3-1のとおり、移動を表す複合動詞において、経路項が前置詞句で表示されることが多いならば、それらによって表されるのが具体的には「起点」「着点」「通過点・ルート」のいずれなのか、調査することに意義があるだろう。また、経路項の語彙化という点では、これまでに取り上げた「離隔」ないし「接近」を表す不変化詞すべてが特定の経路項、すなわち「起点」あるいは「着点」を内包するとは限らない。例えば、「離隔」を表す不変化詞のうち、ab-では主に「何かの上」、aus-では「何かの中」に存在していた個体が、離隔の結果として存在しなくなるということが含意されるため、その限りで移動を構成する意味役割である「起点」に関する情報を内包しているといえるだろう。他方、los-やweg-では、個体がある場所から離れるという2項関係が表されるものの、その個体が参照点となる場所にどのような状態で存在していたか（例えばab-のように「上」、aus-のように「中」）までは特定されておらず、その点において「起点」に関わる情報を十分に内包しているとはいえない。「接近」の不変

化詞についても、「何かの中」という場所の特徴を有するein-は、その意味で移動の「着点」に関する情報を内包していると考えられるが、そうした場所の特徴付けを持たないzu-に関しては、ein-と同様のことは当てはまらない。「通過」の不変化詞に関しては、例えば [irgendwo] in einer Stunde durchfahren「(ある場所)を1時間で乗り物に乗って通過する」の場合のdurch-は、個体が参照点の場所の「中に」確かに存在した(後、そこからいなくなった)という意味を含み、その点で「通過点」に関する情報を内包するといえるだろう。一方で、stundenlang durchfahren「数時間(止まらずに)乗り物に乗って走り続ける」の場合、同じことは当てはまらない。このように、「離隔」「接近」「通過・周回」を表す不変化詞は参照点となる場所の特徴付けをそれ自体に含むか否かという点で異なっており、その差異に応じて、特定の経路項—起点、着点、通過点—の語彙化に貢献するか否か、違いがあるといえる。

4. 事例分析

本節では、前節で言及した「離隔」「接近」「通過・周回」を表す不変化詞のうち、(a)タイプ(経路項が前置詞句で表示される)に属するab-, aus-, durch-, ein-, weg-, zu-を取り上げ、これらが動詞fahrenと結び付き複合動詞となった場合に、経路項の出現頻度や現れ方に影響があるのか否か、事例調査に基づき明らかにする。3.4.で述べたように、上記の6つの不変化詞は、場所に関する特徴付けを持ち、経路項に関する情報を内包するか否かという点で異なる。「離隔」の不変化詞のうち、ab-, aus-は「何かの上」「何かの中」という起点の空間的性質を特徴付けるが、weg-はそのような特徴付けを持たない。「接近」のうち、ein-は「何かの中」として着点に関わる情報を内包するが、zu-はその限りではない。「通過」の不変化詞durch-は、「何かの中」としての通過点を内包することがあるが(例えばdurch den Tunnel durchfahrenなど)、そうでない場合もある(例えばbis Frankfurt durchfahrenなど)。これら相互に異なる特徴を持つ不変化詞を取り上げることで、特定の経路項に関する場所の特徴付けを伴うかが、経路項の共起とどの程度関係するかを調べる⁶。なお、本節で取り上げる「経路項」は、具体的にはin(～の中へ)、durch(～

⁶ 3.2.で取り上げた「接近」を表す不変化詞にはein-, zu-の他にan-, auf-が挙げられるが、anfahrenにおけるan-は「到達」を、auffahrenにおけるauf-は「上方への方向性」をそれぞれ表し、着点に関する情報を内包するものではないため、本稿では分析対象外とする。また、通過を表すüber-については、überfahrenでは移動に用いられる乗り物が主に「舟・船」という特定のものに限定されるため、本稿では対象外とした。

を通過て), nach (～へ), von (～から)などの前置詞によるものに限定する⁷。事例調査は, IDS (=Institut für Deutsche Sprache)によって公開されているCOSMAS II上のヴァーチャルコーパスBraunschweiger Zeitung, September 2005 – Juli 2013 (brz; 収録語数約2億語, 以下BRZコーパスと呼ぶ)を用いて行う。

以下, 4.1.で基礎動詞fahrenを, 4.2.で6つの不変化動詞abfahren, ausfahren, durchfahren, einfahren, wegfahren, zufahrenに関する事例調査を取り上げたのち, 4.3.で分析結果のまとめと考察を行う。

4.1. 基礎動詞fahren

本節では, 不変化動詞の分析に先立ち, 基礎動詞fahrenにおける経路項の出現頻度および共起する具体的な経路項(起点, 着点, 通過点・ルート)に関するサンプル調査の結果を示す。本調査の目的は, fahrenと経路項との共起状況を確認しておくことで, 後の4.2.で取り上げる不変化動詞における経路項の出現状況と比較し, 両者の共通点や相違点を明らかにすることにある。

fahrenに関する調査は, 経路項の出現頻度に関する調査と, 経路項の内訳に関する調査の2段階に分けて行った。具体的には, BRZコーパスから, 検索機能を用いてfahrenのすべての変化形を含む事例を無作為抽出で1万件取り出したのち, 次のように調査1)と調査2)に分けて, 事例の収集と分析を行った:

(I) 調査1): 経路項の出現頻度について

コーパスから抽出した1万件の事例から, fahrenの自動詞用法の事例を手作業で無作為に100例収集した⁸。続いて, 収集した100例について, 経路項と共起しているか否か, 分析を行った。

(II) 調査2): 共起する具体的な経路項の内訳について

コーパスから抽出した1万件の事例から, 新たに自動詞用法かつ経路項と共起する事例を, 調査1)同様に手作業で無作為に100例収集した(この100例には, 調査1)で収集した事例は含まれない)。このようにして収集した100例に関し,

⁷ この基準に照らして, 例えばrückwärts(逆方向へ)やstadtabwärts(街を中心から下って)のような方向規定の表現は, 本節で分析対象とする「経路項」に含まない。

⁸ BRZ コーパスから抽出したデータ(Word ファイル)は出典年次順にソートされており, 事例の収集にあたっては, このデータファイルについて, 10 頁ごとに該当例を 1 例収集していくという方法を取った(ファイル全体でおよそ 960 頁)。これは, 出典年次に偏りが出ないよう配慮したものである。

共起が観察された経路項が具体的に起点、着点、通過点・ルート of のいずれであるか、分析を行った。

以下、4.1.1.で調査1)の結果を、4.1.2.で調査2)の結果を示す。

4.1.1. 経路項の出現頻度

まず、調査1)により、fahrenでは経路項と共起する事例が約70%を占めるという結果が得られた（以下の表4-1参照）。このことから、fahrenでは経路項の出現頻度が相当地に高いといえる⁹：

	経路項なし[-]	経路項あり[+]	計
fahren	29例 (29.0%)	71例 (71.0%)	100例 (100.0%)

表4-1：経路項の出現頻度—基礎動詞fahren

収集された100例については、以下の(8)のように主語で示される具体的な移動物が「人」であるものと、(9)のように「乗り物」であるものとが観察された¹⁰：

(8) Trotzdem fuhr **die 30-Jährige** mit fünf anderen von Berlin nach Braunschweig, (...). (02.02.2011)

(9) Und bei Bedarf fährt **der Bus** auch über Edesbüttel. (26.06.2008)

「人」主語の事例は84例、そのうち経路項を伴うものは59例であった（「人」主語事例の70.2%）。一方で「乗り物」主語の事例は16例、うち経路項を伴うものは12例であった（「乗り物」主語事例の75.0%）。このように基礎動詞fahrenでは、経路項の出現頻度において、主語の移動物の種別による大きな違

⁹ 経路項を伴わない fahren の事例（29例）では、以下の(b), (c)のように、移動の経路がそもそも問題とされず、「(人が) 乗り物に乗る」「(乗り物が) 走行する」という用法のものがほとんどであった。また、主語の移動物が人である場合、(b)のように移動手段の乗り物が前置詞句で表示されるものが比較的多く見られた（「人」主語の25例中9例）。これらのことから、経路項を伴わない fahren では、経路成分がプロファイルされず、様態成分に焦点が当たっていると考えられる：

(b) Wir fahren nicht gern im Winter bei Schnee und Glatteis *mit dem Bus*, (...). (23.02.2010)

(c) Eco Fuel, das soll heißen: Dieses Auto fährt mit Erdgas-Antrieb. (19.04.2007)

¹⁰ 以下、BRZ コーパスからの事例の典拠情報については、日・月・年のみ示す（上掲脚注9の(b), (c)も同様）。なお、事例中の(...)は、筆者が原文から省略した箇所である。

いは見られなかった。

4.1.2. 経路項の内訳

次に、調査2)により、基礎動詞fahrenは経路項のなかでも、とりわけ着点と結び付く頻度が高いという結果が得られた。調査2)の結果を、以下の表4-2で示す。なお、以降の表では [+S] が起点、[+G] が着点、[+P] が通過点ないしルートとの共起を表す：

[+S]	1 (1.0%)	[+S][+G]	13 (13.0%)
[+G]	69 (69.0%)	[+S][+P]	0 (0%)
[+P]	14 (14.0%)	[+P][+G]	3 (3.0%)
[+S][+P][+G]	0 (0%)	計	100 (100.0%)

表4-2：経路項の内訳—fahren

表4-2のとおり、着点のみと共起した事例がおおよそ70%で、その他起点と着点([+S][+G])、通過点と着点([+P][+G])という組み合わせも含めると、着点が出現した事例は全体の85%に及ぶ。Welke (1988)によると、fahrenに代表される移動動詞は移動の目標(Ziel)を前提とするものであり(ibid.: 61)、着点表示のない起点と通過点の組み合わせは、そのためにブロックされる(ibid.: 56)¹¹。表4-2で示されるとおり、本稿のコーパス調査においても実際に、起点と通過点の組み合わせ([+S][+P])は観察されなかった。

次に、経路項の前置詞句の内訳を以下の表4-3で示す。表4-3のとおり、fahrenでは、着点表現のなかでもnach-PPの出現頻度が高いといえる：

¹¹ 移動動詞における経路項の出現・選択制限については、Wotjak (1984) も参照。

[+S]	aus-PP	3 (2.4%)
	von-PP	11 (8.9%)
[+G]	an-PP	3 (2.4%)
	auf-PP	6 (4.9%)
	bis-PP	2 (1.6%)
	gegen-PP	4 (3.3%)
	in-PP	18 (14.6%)
	nach-PP	46 (37.5%)
	zu-PP	13 (10.6%)
[+P]	durch-PP	8 (6.5%)
	über-PP	8 (6.5%)
	um-PP	1 (0.8%)
計		123 (100.0%)

表4-3：経路項の前置詞句の内訳—fahren¹²

上掲の表4-2のとおり、fahren全体では経路項のうち着点との共起頻度が高かったが、主語の移動物の種別に目を向けると、「人」主語か「乗り物」主語かによって、共起しやすい経路項が異なることが明らかになった。「人」主語の事例（82例）では、そのうちの8割近く（65例・79.3%）が着点と共起していた一方で、「乗り物」主語の事例（18例）では、もっとも頻度が高かったのは起点と着点の組み合わせ（6例・33.3%）で、次いで通過点・ルート（5例・27.8%）であった。起点と着点の組み合わせは、移動によって形成されるルートとして捉えることができる。Mannheimer KorpusやLIMAS-Korpusといった複数のコーパスを活用し、fahrenと経路項との共起関係を論じた Muroi (1992, 2005)では、「人」主語の場合は着点(‘Goal’)と、「乗り物」主語の場合は通過点・ルート(‘Path’)と結び付きやすいことが報告されている。本稿の調査結果からも、この傾向を確かめることができたといえる。

4.2. 不変化詞動詞

本節では、fahrenを基礎動詞とする不変化詞動詞abfahren, ausfahren, durchfahren, einfahren, wegfahren, zufahrenを対象としたサンプル調査の結

¹² 表 4-3 では、上掲の表 4-2 と計数が一致しないが、これは以下の例 (d) のように、経路を表す前置詞句が複数共起していた場合、それぞれ数え上げているためである。例 (d) では、in-PP について 1、nach-PP について 1 として、それぞれカウントしている：

(d) Einmal im Monat fahren wir *in das Tierbeim nach Ölpern* (...). (08.01.2013)

果を示す。調査は、4.1.のfahrenの場合と同様、COSMAS II上のBRZコーパスを用いて行った。まず、COSMAS IIの検索機能を利用し、調査対象とする6つの不変化詞動詞について、「各不変化詞動詞のすべての変化形」あるいは「各不変化詞(ab-, aus-, durch-, ein-, weg-, zu-)とfahrenのすべての変化形」が共起する事例を同時に抽出した¹³。次に、コーパスから抽出された事例から、それぞれの不変化詞動詞の自動詞用法の事例を手作業で収集した。この手順により収集できた事例数は、abfahren 738例、ausfahren 50例、durchfahren 261例、einfahren 250例、wegfahren 621例、zufahren 51例の計1971例である。これらの事例について、次の2つの観点から分析を行った：1) 経路項と共起しているか否か、2) 共起が観察された経路項の内訳がどのようなものであるか。

以下、4.2.1.で経路項の出現頻度に関する調査結果を示したのち、4.2.2.で具体的な経路項の内訳に関する結果を示す。

4.2.1. 経路項の出現頻度

事例調査の結果、調査対象とした6つの不変化詞動詞に関し、経路項との共起頻度に違いがあることが明らかとなった。以下、それぞれの動詞と経路項との共起頻度を、表4-4で示す：

	経路項なし[-]	経路項あり[+]	計
abfahren	501例 (67.9%)	237例 (32.1%)	738例 (100.0%)
ausfahren	38例 (76.0%)	12例 (24.0%)	50例 (100.0%)
durchfahren	224例 (85.8%)	37例 (14.2%)	261例 (100.0%)
einfahren	66例 (26.4%)	184例 (73.6%)	250例 (100.0%)
wegfahren	585例 (94.2%)	36例 (5.8%)	621例 (100.0%)
zufahren	1例 (2.0%)	50例 (98.0%)	51例 (100.0%)
計	1415例 (71.8%)	556例 (28.2%)	1971例 (100.0%)

表4-4：経路項の出現頻度—不変化詞動詞

¹³ 例えば不変化詞動詞 abfahren の場合、検索式を「&abfahren oder &fahren /s0 ab」とし、これに該当する事例を抽出した。ただし、COSMAS II のシステム上では、例えば「前置詞の ab」や「不変化詞の ab」などを区別するアノテーション情報がないため、この検索式でヒットする事例には、不変化詞動詞 abfahren の事例以外にも前置詞の ab と fahren が共起する事例も含まれることになる。この方法によって BRZ コーパスでヒットした事例の件数は、次のとおりである：abfahren 4,012 件、ausfahren 6,701 件、durchfahren 5,080 件、einfahren 17,131 件、wegfahren 965 件、zufahren 15,568 件。なお、COSMAS II のシステム上、一度にコーパスから取り出すことのできる事例数は 1 万例と限定されている。そのため、ヒット件数が 1 万件を超えるもの（einfahren と zufahren）については、すべての事例ではなく、1 万例のみコーパスから抽出した。

表4-4のとおり、6つの不変化詞動詞を平均すると、経路項の出現頻度は約30%であった。ausfahren, durchfahren, wegfahrenでは経路項の出現頻度が30%を下回っており、なかでもwegfahrenでは経路項と共起する事例が5.8%と極端に少ない。他方, einfahren, zufahrenでは経路項の出現頻度が高く, einfahrenでは73.6%, zufahrenでは98.0%となっている。なかでもzufahrenでは、サンプルとなる事例数が少ないものの、ほぼすべての例が経路項と共起していた。

次に、主語の種別に応じて経路項の出現頻度に差があるのか分析した。その結果, abfahren, wegfahren, zufahrenでは、「人」主語か「乗り物」主語かによる大きな差異は見られなかった¹⁴。その一方で, ausfahren, einfahren, durchfahrenでは、「人」主語のほうが「乗り物」主語よりも経路項の出現頻度が高いという結果が得られた。経路項との共起頻度は, ausfahrenは「人」主語で33.3%, 「乗り物」主語で5.9%, einfahrenは「人」主語で87.7%, 「乗り物」主語で47.1%, durchfahrenは「人」主語で20.9%, 「乗り物」主語で6.6%であった。

4.2.2. 経路項の内訳

本節では、経路項と共起していた事例（全556例）に関し、その内訳を示す。以下、4.2.2.1.～4.2.2.3.で「離隔」を表す不変化詞を伴うabfahren, ausfahren, wegfahren, 4.2.2.4.～4.2.2.5.で「接近」を表すeinfahren, zufahrenの調査結果を示す。4.2.2.6.では「通過」を表す不変化詞を伴うdurchfahrenの結果を示す。

4.2.2.1. abfahren

abfahrenでは、以下の表4-5のとおり、経路項と共起する事例のうち、80%以上が起点と共起するものであった。文中に共起した経路項およびそれらの組み合わせについて、具体的な事例を(10)～(14)に示す：

[+S]	210 (84.4%)	[+S][+G]	14 (5.6%)
[+G]	15 (6.0%)	[+S][+P]	0 (0%)
[+P]	9 (3.6%)	[+P][+G]	0 (0%)
[+S][+P][+G]	1 (0.4%)	計	249 (100.0%)

表4-5：経路項の内訳—abfahren¹⁵

¹⁴ abfahren, wegfahren, zufahrenについて、主語の種別ごとに経路項と共起する事例の頻度を示すと、次のとおりである：abfahren「人」34.7%, 「乗り物」31.3%; wegfahren「人」5.6%, 「乗り物」7.8%; zufahren「人」97.8%, 「乗り物」100%。

- (10) [+S]; Heute Morgen habe ich mit meinem Auto einen Dreher gemacht, als ich *von der Autobahn* abfuhr. (07.03.2006)
- (11) [+G]; Die Busse fahren um 8 Uhr *nach Hannover* ab, (...). (16.03.2012)
- (12) [+P]; Wenn diese 41 Fahrzeuge auch *über die Südstraße* abfahren, (...). (20.02.2013)
- (13) [+S][+G]; *Von Braunschweig nach Wolfsburg* fährt der RE-Verstärkerzug 7.24 Uhr 20 Minuten früher ab. (15.03.2011)
- (14) [+S][+P][+G]; Die Busse fahren früher als die ausfallenden Züge *von Braunschweig über Weddel, Schandelah nach Königslutter*, beziehungsweise *über Frellstedt nach Helmstedt* ab. (06.09.2007)

また、文中に共起した経路項が具体的にどの前置詞句で表されていたか、その内訳を以下の表4-6として示す。表4-6のとおり、abfahrenではvon-PPが頻出した：

[+S]	ab-PP	13 (4.9%)
	aus-PP	9 (3.4%)
	von-PP	202 (76.2%)
[+G]	auf-PP	6 (2.3%)
	in-PP	3 (1.1%)
	nach-PP	19 (7.2%)
	zu-PP	3 (1.1%)
[+P]	durch-PP	2 (0.8%)
	über-PP	7 (2.6%)
	zwischen-PP	1 (0.4%)
計		265 (100.0%)

表4-6：経路項の前置詞句の内訳—abfahren¹⁶

¹⁵ 表 4-5 の計数と上掲の表 4-4 における「経路項あり」の事例数が一致しないが、これは、例えば以下の (e) のような事例の und で繋がられている経路項を、(実際には 2 文相当と見なし) それぞれ別に数え上げているためである (4.2.2. 内の以下の表 4-7, 表 4-11 についても同様)：

(e) Ab 13.15 Uhr fährt ein Bus für die Senioren *vom Brink* und anschließend *von der Bank im Ort* ab. (16.08.2006)

4.2.2.2. ausfahren

以下の表4-7のとおり，ausfahrenと共起した経路項は，起点のみであった。
具体的な事例を(15)で示す：

[+S]	13 (100.0%)	[+S][+G]	0 (0%)
[+G]	0 (0%)	[+S][+P]	0 (0%)
[+P]	0 (0%)	[+P][+G]	0 (0%)
[+S][+P][+G]	0 (0%)	計	13 (100.0 %)

表4-7：経路項の内訳—ausfahren

- (15) [+S]; „(...) — damit der Kanal auch frei ist, wenn wir dann in einer
Kolonne *aus dem Hafen* ausfahren.“ (20.10.2008)

経路項として出現した前置詞句の内訳は，以下の表4-8のとおりである。全体の事例数が少ないものの，ausfahrenは起点表現のなかでもとりわけaus-PPと結びつく傾向があるといえる：

[+S]	aus-PP	9 (69.2%)
	von-PP	4 (30.8%)
計		13 (100.0%)

表4-8：経路項の前置詞句の内訳—ausfahren

4.2.2.3. wegfahren

wegfahrenについても，abfahren，ausfahrenと同様に，起点表現の出現頻度がもっとも高いという結果が得られた。経路項の内訳を表4-9，具体的な事例を(16)～(18)で示す：

[+S]	30 (83.3%)	[+S][+G]	0 (0%)
[+G]	1 (2.8%)	[+S][+P]	0 (0%)
[+P]	5 (13.9%)	[+P][+G]	0 (0%)
[+S][+P][+G]	0 (0%)	計	36 (100.0 %)

表4-9：経路項の内訳—wegfahren

¹⁶ 表4-6では，上掲の表4-5と計数が一致しないが，これはひとつの事例において経路項の前置詞句が複数共起している場合，それぞれの前置詞句で数え上げているためである（上述の脚注12も参照）。なお，以降の表4-12，表4-14，表4-16についても同様である。

- (16) [+S]; Der 37-Jährige ist dann mit seinem Auto und seinem Begleiter *vom Tatort* weggefahren (...). (26.04.2007)
- (17) [+G]; Der Fahrer habe dann den Polo-Fahrer ausgeschimpft und sei anschließend einfach *in die Campenstraße* weggefahren. (22.05.2006)
- (18) [+P]; Mit Blick auf die Vollsperrung haben die meisten Anlieger ihre Autos so geparkt, dass sie *über Seitenstraßen* weggefahren können. (07.08.2008)

また、具体的な前置詞句の内訳は、以下の表4-10のとおりである。wegfahren では、起点表現のなかでも von-PP が出現しやすい傾向が見られた：

[+S]	aus-PP	4 (11.1%)
	von-PP	26 (72.2%)
[+G]	in-PP	1 (2.8%)
[+P]	über-PP	4 (11.1%)
	um-PP	1 (2.8%)
計		36 (100.0%)

表4-10：経路項の前置詞句の内訳—wegfahren

4.2.2.4. einfahren

einfahren では、以下の表4-11のとおり、共起していた経路項の80%以上が着点を表示するものであった。(19)～(24)は具体的な事例である：

[+S]	2 (1.1%)	[+S][+G]	22 (11.9%)
[+G]	154 (83.2%)	[+S][+P]	0 (0%)
[+P]	2 (1.1%)	[+P][+G]	4 (2.2%)
[+S][+P][+G]	1 (0.5%)	計	185 (100.0 %)

表4-11：経路項の内訳—einfahren

- (19) [+S]; (...), Anlieger könnten *von der Teichstraße her* einfahren. (04.05.2007)
- (20) [+G]; (...), Anwohner dürfen noch *in die Straße* einfahren (...). (02.02.2010)

- (21) [+P]; Die Halle bietet so viel Platz, dass Lastwagen *durch die sich beim Hochfahren teilenden Glastore* einfahren können, (...). (26.09.2009)
- (22) [+S][+G]; Ein 19 Jahre alter Autofahrer, der *von der Gleiwitzer Straße in die Kattowitzer Straße* einfahren wollte, (...). (14.03.2007)
- (23) [+P][+G]; Inzwischen können die Geschäftsleute gut damit leben, dass keine Autos *über die Amtsgasse auf den Markt* einfahren dürfen. (23.04.2008)
- (24) [+S][+P][+G]; Wer *von Osten nach Hannover über die Podbielskistraße* einfährt, kennt seit vielen Jahren (...). (15.10.2008)

また、経路項の前置詞句の内訳は、以下の表4-12のとおりである：

[+S]	aus-PP	4 (1.9%)
	von-PP	21 (9.8%)
[+G]	auf-PP	13 (6.1%)
	in-PP	165 (77.0%)
	nach-PP	4 (1.9%)
[+P]	durch-PP	1 (0.5%)
	über-PP	6 (2.8%)
計		214 (100.0%)

表4-12：経路項の前置詞句の内訳—einfahren

表4-12のとおり、einfahrenでは、共起頻度がもっとも高かった着点表現のなかでも、とりわけin-PPと結び付く傾向があった。また、着点表現に次いで頻度が高かった、起点と着点の組み合わせでもっとも観察されたのは、上掲の例(22)のような、起点がvon-PPで表され、かつ着点がin-PPで表されるものであった（起点と着点との組み合わせが出現した22件中13件）。

4.2.2.5. zufahren

zufahrenで共起が観察された経路項は、以下の表4-13のとおり、着点あるいは起点と着点との組み合わせによるものであった。具体的な事例は(25)、(26)のとおりである：

[+S]	0 (0%)	[+S][+G]	5 (10.0%)
[+G]	45 (90.0%)	[+S][+P]	0 (0%)
[+P]	0 (0%)	[+P][+G]	0 (0%)
[+S][+P][+G]	0 (0%)	計	50 (100.0 %)

表4-13：経路項の内訳—zufahren

- (25) [+G]; Gegen 4.15 Uhr war der Mann mit seinem roten Golf in Höhe Großmarkt rücksichtslos *auf eine Personengruppe* zugefahren. (29.03.2008)
- (26) [+S][+G]; Als ich gestern *von der Hoffmannstraße auf den Hofekamp* zufuhr, (...). (09.10.2007)

さらに、以下の表4-14のとおり、zufahrenでは、着点を表示する前置詞句が auf-PPに限定されていた：

[+S]	aus-PP	2 (3.6%)
	von-PP	3 (5.5%)
[+G]	auf-PP	50 (90.9%)
計		55 (100.0%)

表4-14：経路項の前置詞句の内訳—zufahren

4.2.2.6. durchfahren

durchfahrenでは、以下の表4-15のとおり、共起した経路項でもっとも頻度が高かったのが着点、次いで通過点・ルートという結果であった。具体的な事例を(27)～(29)で、前置詞句の内訳を表4-16で示す：

[+S]	0 (0%)	[+S][+G]	6 (16.2%)
[+G]	23 (62.2%)	[+S][+P]	0 (0%)
[+P]	8 (21.6%)	[+P][+G]	0 (0%)
[+S][+P][+G]	0 (0%)	計	37 (100.0 %)

表4-15：経路項の内訳—durchfahren

- (27) [+G]; Donnerstags, freitags und samstags könnten Fahrgäste vormittags per Dampfzug *bis Eisfelder Talmühle* durchfahren (...).

(24.04.2010)

(28) [+P]; *Durch Sousse* sei er (...) nur durchgefahren. (01.03.2011)(29) [+S][+G]; Der Bus sollte dann ohne Halt direkt *von Helmstedt nach Wolfsburg* durchfahren. (24.05.2013)

[+S]	von-PP	6 (14.0%)
[+G]	bis-PP	17 (39.4%)
	in-PP	1 (2.3%)
	nach-PP	7 (16.3%)
	zu-PP	4 (9.3%)
[+P]	durch-PP	6 (14.0%)
	zwischen-PP	2 (4.7%)
計		43 (100.0%)

表4-16：経路項の前置詞句の内訳—durchfahren

収集されたdurchfahrenの事例は、語義の違いに応じて2つのグループに分けられる。上掲(27)～(29)を例にすると、(28)が「(どこかを)通過する」という意味であるのに対し、(27)、(29)は「(止まらずに)走り続ける」という意味を表している。上掲の表4-15のとおり、durchfahren全体の傾向を確かめたのち、これらの語義の違いに応じて経路項との共起関係に違いがあるのか否か、分析を行った。すると、語義の違いによって経路項との共起頻度に差があることが分かった。以下の表4-17のとおり、durchfahrenが「通過する」という意味を表す場合、経路項を伴わない事例が優勢である一方で、「走り続ける」という意味を表す場合には、高い頻度で経路項と共起していた。また、共起する経路項の内訳についても差異が認められた。表4-18のとおり、「通過する」という意味では経路項として通過点のみが出現した。また、「走り続ける」という意味で経路項が表示される場合、(起点との組み合わせも含め)すべての事例で着点 appeared した：

	経路項なし[-]	経路項あり[+]	計
durchfahren「通過する」	212例 (96.4%)	8例 (3.6%)	220例 (100.0%)
durchfahren「走り続ける」	12例 (29.3%)	29例 (70.7%)	41例 (100.0%)
計	224例 (85.8%)	37例 (14.2%)	261例 (100.0%)

表4-17：語義の違いと経路項の出現頻度

語義 経路項	durchfahren「通過する」	durchfahren「走り続ける」
[+G]	0 (0%)	23 (79.3%)
[+P]	8 (100.0%)	0 (0%)
[+S][+G]	0 (0%)	6 (20.7%)
計	8 (100.0%)	29 (100.0%)

表4-18：語義の違いと経路項との共起関係

表4-17、表4-18のとおり、「走り続ける」という意味を表すdurchfahrenは、(i)経路項と高頻度で共起する、(ii)着点と結び付きやすい傾向がある、という点において、基礎動詞fahren（4.1.参照）と類似のふるまいを示すといえる。

4.3. 分析結果のまとめと考察

以上、4.1.では基礎動詞fahren、4.2.では不変化詞動詞abfahren, ausfahren, wegfahren, einfahren, zufahren, durchfahrenを対象とし、BRZコーパスの事例をもとに経路項の出現状況に関する調査・分析を行った。4.1.1.と4.2.1.の結果を比較すると、fahrenが高頻度で経路項と共起するのに対し、abfahren, ausfahren, durchfahren, wegfahrenは経路項との共起頻度がかなりの程度で低いといえる。その一方で、einfahrenでは基礎動詞fahrenと同程度の頻度で経路項との共起が観察され、zufahrenではfahrenよりも高い頻度で経路項と共起するという結果が得られた。さらに、基礎動詞が不変化詞と結び付くことで、共起する具体的な経路項にも影響を及ぼすことが明らかとなった。調査の結果、abfahren, ausfahren, wegfahrenなどの「離隔」を表す不変化詞動詞では、起点表現との共起頻度がもっとも高いことが明らかになった。また、「接近」を表すeinfahren, zufahrenについては、着点表現が高頻度で出現するという結果が得られた。「通過」が表されるdurchfahrenについては、「（どこかを）通過する」「（止まらずに）走り続ける」という語義の違いによって、いずれの経路項と結び付きやすきに差が見られた。収集された事例では、durchfahrenが「通過」を表す場合には通過点とのみ共起していた。また、「走り続ける」という意味の場合には着点との共起頻度が高いことが明らかとなった。紙幅の都合から具体的な数値を挙げることは省くが、以上のようなそれぞれの不変化詞動詞ともっとも高頻度で共起した経路項は、「人」か「乗り物」かという主語の種別によらず一定であった。次に、不変化詞が特定の経路項に関わる場所的特徴付けを伴うか否かという点では、そうした特徴付けを持たないwegfahren

で、(起点を内包する) *abfahren*, *ausfahren*と比較して経路項との共起頻度が低いという結果が得られた。また、着点に関する場所的特徴付けを持たない *zufahren*では、経路項の出現頻度が(着点を内包する) *einfahren*や他の不変化詞動詞と比べても高く、経路項の共起がほぼ必須であった。

以上の調査・分析結果をまとめると、特定の経路項を内包する不変化詞動詞は、基礎動詞 *fahren* と比べ、その内包された経路項 (*ab-*, *aus-*では「起点」、*ein-*では「着点」、*durch-*では「通過点」) を具体的に表出する前置詞句と共に起しやすいといえる。また、「起点」や「通過点」を内包する不変化詞動詞ではそうした経路項の前置詞句との共起頻度が30%程度かそれ以下と低いのに対し、「着点」を内包する不変化詞動詞では経路項との共起頻度が70%以上と、基礎動詞 *fahren* と同程度の高い値であった(4.2.1.参照)。Ikegami (1987)によると、起点と着点には非対称性があり、着点が無標である一方、起点は有標な表示であるという¹⁷。4.1.2.で言及したとおり、Welke (1988)が指摘するところの、着点表示のない環境で起点との組み合わせがブロックされる通過点も、起点と同様に有標な表示と捉えることができるだろう。本稿の調査結果から示されたとおり、起点ないし通過点を内包する *abfahren*, *ausfahren*, *durchfahren* では、経路項との共起頻度が低い。これらの動詞では、不変化詞 *ab-*, *aus-*, *durch-*によって前置詞が支配する項が飽和した表現として起点ないし通過点が表示されており、そうした形態的な手続きを経て動詞の語彙意味に包入された有標な表示を、さらに前置詞句で表出することは好まれないのではないと思われる。*einfahren*においても、不変化詞 *ein-*によってそれ自体で着点が表示されているが、着点がそもそも無標であるために、語彙意味に内包された経路項を前置詞句によって表出することに(起点や通過点ほどの)制限がかからないのではないと思われる。

調査対象とした不変化詞動詞のうち、*wegfahren*と*zufahren*は、起点ないし着点に関する空間的特徴付けを表さないものである。第2節で述べたとおり、不変化詞による特定の経路項の語彙化と表される事象の限界性には密接な関連があるが、以下の(30)のとおり、*zufahren*については動詞自体が表す事象が非限界的であると考えられる：

¹⁷ 例としては、英語の *run from behind the wall/run behind the wall* のように起点は前置詞 *from* によってマークされなければならない一方で、着点の場合はそのようなマークが必ずしも必要とされないこと、日本語で「ジョンが来た駅」のように起点や着点をマークする助詞を伴わない場合には着点としてのみ解釈が可能なこと、などが挙げられている (Ikegami (1987: 126f.) 参照)。

- (30) a. Wir sind immer auf den Berg zugefahren.
 b. *Wir sind in einer Stunde auf den Berg zugefahren.

zufahrenは着点を内包せず、かつ(30)で示されるように限界的でもないからこそ、2項の関係を表す「接近」という意味を構成する不可欠な参照点としてaufを伴う前置詞句が補われると考えられる。また、そのように着点との親和性が高い「接近」のzufahrenにおいて着点の共起がほぼ必須であり、起点との親和性が高い「離隔」のwegfahrenで起点を含め経路項との共起頻度が低いという対照的な結果は、Ikegami (1987)で指摘される「起点と着点の非対称性」のひとつの現れと見ることもできるかもしれない。

5. おわりに

本稿のコーパス調査の結果、abfahren, ausfahren, einfahren, durchfahrenなどの起点、着点、通過点のいずれかの経路項を内包する不変化詞動詞は、基礎動詞fahrenに比べ、内包された経路項を具体的に表出する前置詞句と共起する傾向があることが明らかになった。本稿で分析対象とした基礎動詞はfahrenという移動志向の動詞に限定されており、例えばrudernやschwimmenのように様態成分に焦点が当たりやすいと考えられる移動動詞では、また異なる結果が得られるかもしれない。また、「通過する」「走り続ける」という語義の違いに応じて経路項の出現状況に差異が見られたdurchfahrenに関しては、これらの語義が統合可能なものなのか、あるいはどちらか一方へと還元できるものなのか、ということも問われるだろう。このように、引き続き調査と分析を進める余地は大きいものの、本稿の結果からは、経路項の表出に関し、次のような見通しが示される：(i) Olsen (1997, 1998)では不変化詞動詞と共起する「冗長」な前置詞句は不変化詞そのものに内包された情報を明示する機能を持つと分析されているが、この分析は実例調査による経験的観点からも支持される。(ii) その一方で、Olsenによる分析ではその理論的帰結として、不変化詞に内包された経路項を表示する前置詞句のみが不変化詞動詞との共起を許されるが(Olsen (1997: 27)参照)、そうした前置詞句と比べると数としては少ないながらも、abfahrenでは「起点」以外の、einfahrenでは「着点」以外の前置詞句とも共起する事例が確認された。こうした言語事実から、不変化詞動詞における経路項の表出には、意味的制限よりむしろ、不変化詞による造語的な手続きに伴う形態的・統語的な制限がかかると考えられる。

参考文献

- Fleischer, Wolfgang/Barz, Irmhild (1992): *Wortbildung der deutschen Gegenwartssprache*. Tübingen: Niemeyer.
- Gerling, Martin/Orthen, Norbert (1979): *Deutsche Zustands- und Bewegungsverbien. Eine Untersuchung zu ihrer semantischen Struktur und Valenz*. Tübingen: G. Narr.
- Ikegami, Yoshihiko (1987): 'Source' vs. 'Goal': a case of linguistic dissymmetry. In: Dirven, R./Radden, G. (eds.) *Concepts of Case*. Tübingen: G. Narr, 122–146.
- Kaufmann, Ingrid (1993): Semantic and conceptual aspects of the preposition *durch*. In: Zelinsky-Wibbelt, C. (ed.) *The Semantics of Prepositions: From Mental Processing to Natural Language Processing*. Berlin: de Gruyter, 221–247.
- Kaufmann, Ingrid (1995): *Konzeptuelle Grundlagen semantischer Dekompositionsstrukturen: Die Kombinatorik lokaler Verben und prädikativer Komplemente*. Tübingen: Niemeyer.
- Kühnhold, Ingeburg (1973): Präfixverben. In: Kühnhold, I./Wellmann, H. (Hgg.) *Deutsche Wortbildung. Typen und Tendenzen in der Gegenwartssprache. 1. Hauptteil: Das Verb*. Düsseldorf: Pädagogischer Verlag Schwann, 141–362.
- Maienborn, Claudia (1990): *Position und Bewegung: Zur Semantik lokaler Verben*. Stuttgart: IBM Deutschland.
- 宮島達夫 (1984): 「日本語とヨーロッパ語の移動動詞」 In: 金田一春彦博士古稀記念論文編集委員会編『金田一春彦博士古希記念論文集 第2巻 言語学編』三省堂, 456–486.
- Muroi, Yoshiyuki (1992): Zur Szene von ‚fahren‘ — Aus einer Kollokationsanalyse. In: *Energiea* 18, 59–75.
- Muroi, Yoshiyuki (2005): Multilateral interpretation of corpus-based semantic analysis. — The case of the German verb of movement *fahren*. In: Kawaguchi, Y. et al. (eds.) *Linguistic Informatics: State of the Art and the Future*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, 167–179.
- Olsen, Susan (1997): Zur Kategorie Verbpartikel. In: *Beiträge zur Geschichte der deutschen Sprache und Literatur* 119, 1–32.
- Olsen, Susan (1998): Prädikative Argumente syntaktischer und lexikalischer Köpfe — Zum Status der Partikelverben im Deutschen und Englischen. In: *Folia Linguistica* 31 (3–4), 301–329.
- Schröder, Jochen (1993): *Lexikon deutscher Verben der Fortbewegung*. Leipzig/Berlin/München: Langenscheidt, Verlag Enzyklopädie.
- Stiebels, Barbara (1996): *Lexikalische Argumente und Adjunkte: Zum semantischen Beitrag von verbalen Präfixen und Partikeln*. Berlin: Akademie.

- Talmy, Leonard (1985): Lexicalization patterns: semantic structure in lexical forms. In: Shopen, T. (ed.) *Language Typology and Syntactic Description, vol. 3, Grammatical Categories and the Lexicon*. Cambridge: MIT Press, 57–149.
- Talmy, Leonard (2000): *Toward a Cognitive Semantics, vol. 2, Typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Welke, Klaus (1988): *Einführung in die Valenz- und Kasus-theorie*. Leipzig: Bibliographisches Institut.
- Wotjak, Gerd (1984): Zur Aktantifizierung von Argumenten ausgewählter deutscher Verben. In: *Zeitschrift für Germanistik* 5 (4), 401–414.
- Wunderlich, Dieter (1993): On German *um*: semantic and conceptual aspects. In: *Linguistics* 31 (1), 111–134.

